

### 第3回 いいやま菜の花文庫（仮称）活用検討委員会会議録（要旨）

令和6年（2024年）1月13日（土）

午前10時から11時10分まで

飯山市公民館101会議室

出席者 委員13名、事務局5名

#### 1 開会 図書館長

欠席委員4名

#### 2 あいさつ

会長：いいやま菜の花文庫活用検討委員会は皆さんに協力いただき一步步進めてきた。本日も忌憚のない意見、お力添えをお願いしたい。

#### 3 協議事項

##### （1）寄贈図書の名称について 資料2ページ

事務局：寄贈された図書の文庫名について、寄贈者の意向をお聞きし決めていく予定だが、検討委員の皆さんの意見も集約したい。

文庫名アンケート結果

- ・いいやま菜の花文庫 7票
- ・いいやまブナの森文庫 4票
- ・その他 上野 or 野上ふるさと文庫

また、将来的には広域的な活用の見地から「いいやま」は必要ないのではないかとの意見があった。

結果を理事者へ報告して進めていく。

##### （2）令和6年度絵本で育てるまちづくり事業（寄贈図書の活用を高めるために実施する事業）（案）について 資料3ページ

事務局：今まで検討委員会で出された意見や、事業（案）実施にあたり、提案等も含めたものである。

委員：賛成する。昨年末に戸狩小学校で読み語りの会で寄贈本の1冊を、寄贈の主旨を含めて紹介した。広報もしてもらっているが、寄贈本をできるだけ早く使えるようにして、その趣旨も紹介していくことが大事である。読み聞かせの会の講師について、絵本の専門図書館である安曇野のちひろ美術館の元館長の松本猛さんを知っているので依頼することができる。また、絵本文化を味わったり、昔話を絵本とともに紹介してくれる高齢者等がおられるので、そういった方にも呼び掛けしてほしい。

会長：絵本読み聞かせの会は、複数回開催が可能であれば知恵を絞ってやっていきたい。

委員：学校でもタブレット等への依存が増していて、絵本に親しむ機会を設けてもらえることはありがたい。自分を発信することが苦手な子や、発達障害を抱え学校で生きづらさを感じ来られなくなる子が潜在的にかなり見られるが、そういう子どもは絵に対する興味が高い子が多いので、絵本作りとか絵に興味のある子が参加できる機会を公共のところでつくることによって社会とつながっていければいい。

会長：地域の皆さんが理解し、そうした機会をつくり、地域で子どもを育てる取り組みは大切だと思う。

事務局：寄贈本の地域への貸し出しの意見ももらっているので考えていきたい。公民館の春休み体験教室などいろいろなメニューが用意できるので取り組んでいきたい。

委員：絵本マルシェはとてもいい企画である。観光客には道の駅も人気であるので、いろいろな方が交流できる場所で絵本で育てるまちづくり事業を行うのがいいと思う。飯山駅で行う場合、新幹線を降りて、そのまま素通りとなるので、事前のPRや信州いやま観光局と連携し、どう留めて交流してもらおうか考えていかなかないといけない。駅の秋のイベントに合わせるのもいいが、冬季はたくさんに人が駅を利用しているので活かせればいい。

委員：先日中国や香港の大企業の方たちが大勢来られ道の駅などを楽しまれた。そういう機会を捉えたい。ストーブ列車とか、駅1階の大画面付近に飯山に関する絵本や寄贈された絵本でふるさとを感じさせるような本等を置き、絵本と雪と飯山をアピールできればいい。絵本で町おこしをしようとする飯山のイメージが伝わると移住者を呼び込む一つの材料となる。

委員：絵本マルシェに関して、ストリートラボといったもので、えびす講の歩行者天国に絵本を持って行って、お母さんと子どもや散歩している人に絵本を読む場所を提供できればいい。

会長：市内にはイベントがたくさんあるので、絵本の寄贈のアピールも兼ねて、そうした機会を活かせればいい。

事務局：絵本マルシェに関しては、他のイベントに合わせて、寄贈された絵本を持って行って見てもらったり、読み聞かせなどのイベントを考えていて、そうしたことが徐々に広がっていけばいい。

会長：司書の方は読み聞かせも得意であり、日常業務もあるが、そういったところでもお力添えをいただきたい。道の駅もかなりの来訪者があるので、何か所かで取り組んでいければいい。

### (3) 寄贈図書の保管場所について 資料4ページ

事務局：この委員会で図書館3階の多目的室を改装して2階の「えほんのへや」を拡充してはどうかという意見もいただき、案を作成した。については、学習室と多目的室の

機能を1つにすることになるが、現在の利用人数から対応可能である。長期休暇等の期間は学習室等の利用者が多くなるが、その際は公民館使用も検討しながら利用者の用に供していきたい。

会長：予算が絡むのですぐに整えることは厳しいが、年次的に整備していきたい。

委員：新刊が入ってくると収納はどうなるか。本は消耗品なので寄贈本の廃棄は可能か。

事務局：寄贈者も本を活用してもらうことを望まれているので、その後の扱いは除籍の基準で処分していくことを考えている。新刊が増えてくる中では閉架の整理が必要である。また予算の絡みがあるが、閉架の増設も考えていかなければならないと思ってる。

委員：ストリートラボで子どもがお母さんと一緒に本を読む中で、これは家で読みたいというようになったら、どうぞと持って帰ってもらうのもいいのではないか。本を欲しい人には本をあげることもいいと思う。

事務局：差しあげることまでは考えていないが、寄贈者と相談していきたい。

会長：廃棄の対象となるが、まだ活用できる本はご自由にお持ちくださいといった対応の図書館もあるので、有効利用していきたいと思う。

事務局：当図書館では図書館まつりでリサイクル市として販売しているので、そこを無料とするとかなども考えていきたい。

会長：団体貸し出しも柔軟に対応したい。地域等で広く活用できるようにしていきたい。

事務局：保育園等に団体貸し出しをしているので、運用等を検討しながらいろいろなところで貸し出しできるように考えていきたい。地区活性化センター等での活用の意見もあるので、そういうことも考えていきたい。

委員：10,000冊寄贈とのことだが、地区活性化センター等に分散させると1か所当たりでは冊数が少なく見えてしまう。

事務局：寄贈本は今年度10,000冊であるが、絵本で育てるまちづくり事業を行っていくには寄贈本だけではやっていけないという思いはある。寄贈以外でも図書館予算で本を買っていく必要があると思う。寄贈本の中には既に図書館で所有している本もあり、そうしたダブリを他に貸し出していければいい。最初は冊数が少なくてもやっていくことが大切である。

会長：可能なところから可能なやり方でやっていければいいと思う。

#### (4) 諮問事項に係る答申について

##### ① 図書館長から諮問された事項

ア 上野氏から寄贈される書籍を活用した図書館事業について

イ 寄贈図書 の 保管場所 について

事務局：これまでの経過及び答申案の説明

～ 了承 ～

事務局：この1月18日に市図書館協議会が開催されるので、その場で正式に決定し、答申をいただき市長に報告することになる。

(5) クリーニング等作業の進捗状況について 資料5ページ

事務局：閲覧室の児童コーナーに寄贈本の絵本を中心に貸し出し可能な729冊を並べ貸し出しできるようになっている。

現在上野さんから6,089冊の本が図書館に届いている。今年度10,000冊をいただくことになっているので、残り約4,000冊は3月末までには搬入される。

委員：寄贈本に紙芝居はあるか。

事務局：紙芝居はない。絵本や児童図書、大人向けの本も多少ある。それと雑誌にあたるが、「こどものとも」や「かがくのとも」といった薄い月刊誌が500～600冊入っている。

#### 4 その他

(1) 次回開催日時

事務局：次回会議を3月に予定したい。

委員：10,000冊の本を寄贈される上野さんには飯山愛を感じるので、上野さんの講演会を要望する。

事務局：上野さんには10年ほど前に市公民館主催の子育てセミナーで講演いただいている。お忙しい方であり相談していきたい。時期としては寄贈本が全部揃った段階がいいかと思う。

委員：今後の本のクリーニング作業の連絡はいただけるのか。

事務局：連絡する。

委員：当初クリーニング作業は水曜日であったが、図書館休館の月曜日以外はいつでもいいのではないか。

会長：司書が初めての方に本のクリーニングのやり方を教えるのが水曜日であった。経験された方は都合のいいときに来ていただいていた。

事務局：作業する部屋の定員の範囲内であれば、都合のいいときに来て作業を助けてほしい。

会長：人数の調整が要る。

委員：作業の依頼人数が漠然としていて作業する部屋も狭い。

事務局：市ボランティア連絡協議会への作業依頼は代表者に連絡をして、その代表者から伝達してもらった。ただ代表者も何人が対応可能かまでは把握できていなかった。

今後は検討委員中心に作業をお願いしたい。

会長：市ボランティア連絡協議会は何曜日とかに決めておけばいいのではないか。

事務局：残り4,000冊のうち、まず2,000冊は1月下旬か2月上旬に搬入予定。

事務局：検討委員会の今後の予定に関しては、寄贈本の活用策や保管場所について概ねの意見がまとまり、また年度末までに10,000冊が搬入される。本委員会は次回3月に開催するが、あと1～2回くらいで役割を終えるのではないかと考えている。この委員会は解散して、その先はもっと市全体のまちづくりのための会などをつくってやっていくかはこれからのこととなるが、そのような流れになると思う。

会長：この委員会の縁をつなげ、今後ともお力沿いをいただきたいと思う。

事務局：絵本コミュニケーター養成講座への申し込みをしていただきたいと思う。

## 5 閉会 館長

以上